

平成27年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	<p>建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである</p> <p>教育方針 徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。</p>
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 2. 進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 3. 学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できる学力・実力を身に付けさせる。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	5年連続の東京大学願駅合格をはじめとし、国公立大学に56名が合格し、四年生大学の現役合格率が86.7%というという結果であった。本年度も1学期末に、3年生対象に校内で12校大学の入試担当者による大学説明会、2年生での進学講演会、1年生でのキャリア教育講演会などを実施した。夏季・冬季休業中の補習の実施や、インターネットを活用したオンライン予備校の導入により受験を意識させるとともに、更なる学力の向上を目指した。	A
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的な参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	各クラスでの目標設定を明確化することにより、学習内容や授業展開に関して教科間での統一が図れ、生徒が理解できる授業展開を目指した。放課後小テスト実施などから、学習習慣の定着をはかり、理解度の低い生徒に関しては数学・理科で放課後サポートタイムを実施し、理解度の引き上げを目指した指導をしてきた。	B
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次の行事に向けた指導ができたか。	今年度の学校行事としては、全学年対象の体育祭、学園祭、球技大会、宮本亜門さんを招いての教育講演会、学年単独では、1年生の校外研修や古典芸能鑑賞、2年生のカナダ修学旅行、3年生の芸術鑑賞など多くの行事を実施することができた。	A
3	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	1年生の多くの生徒が入部・活動し、文武両道を目指している。女子陸上部、男子陸上部、水泳部、スキー部が関東や全国規模の大会へ出場した。部活動参加で普段の学習時間に制約がある生徒も、継続実施されている定期考査前の質問時間を利用することで、定期考査に向けた学習の問題解決ができた。	A

現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策
入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できる学力・実力を身に付けさせる。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	5年連続の東京大学願駅合格をはじめとし、国公立大学に56名が合格し、四年生大学の現役合格率が86.7%というという結果であった。本年度も1学期末に、3年生対象に校内で12校大学の入試担当者による大学説明会、2年生での進学講演会、1年生でのキャリア教育講演会などを実施した。夏季・冬季休業中の補習の実施や、インターネットを活用したオンライン予備校の導入により受験を意識させるとともに、更なる学力の向上を目指した。	A	現役合格率の更なる向上と、国公立や私立大学への合格者の内容の充実を図るようにする。同時に、在校生への受験情報の供給や受験準備のための補習などを通して、早い段階からの受験に向けた環境づくりを継続できるようにし、生徒たちのニーズに応えられる進路指導の徹底を図る。
希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的な参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	各クラスでの目標設定を明確化することにより、学習内容や授業展開に関して教科間での統一が図れ、生徒が理解できる授業展開を目指した。放課後小テスト実施などから、学習習慣の定着をはかり、理解度の低い生徒に関しては数学・理科で放課後サポートタイムを実施し、理解度の引き上げを目指した指導をしてきた。	B	より明確化された各コースでのコース目標達成に向けた授業展開を行なうと共に、徹底した基礎学力の指導により、応用力まで身に付けられるような指導をする。
体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次の行事に向けた指導ができたか。	今年度の学校行事としては、全学年対象の体育祭、学園祭、球技大会、宮本亜門さんを招いての教育講演会、学年単独では、1年生の校外研修や古典芸能鑑賞、2年生のカナダ修学旅行、3年生の芸術鑑賞など多くの行事を実施することができた。	A	次年度以降も、今年度同様の行事を計画・実施できるようにする。同時に生徒会主導の行事において、参加クラスや団体以外でも、生徒の個性が発揮できるような場が出来るようにする。
多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	1年生の多くの生徒が入部・活動し、文武両道を目指している。女子陸上部、男子陸上部、水泳部、スキー部が関東や全国規模の大会へ出場した。部活動参加で普段の学習時間に制約がある生徒も、継続実施されている定期考査前の質問時間を利用することで、定期考査に向けた学習の問題解決ができた。	A	今年度関東や全国規模の大会に出場した部活動の来年度以降の継続出場と入賞、それ以外のクラブに関しても、多くの上位大会に出場し活躍できるような環境作りを目指す。